

3月15日  
発行

愛媛県立中央病院広報誌

# い はる び よ こ 春 日 和

2022年  
第54号

ご自由にお持ち帰りください



## チーム医療のご紹介

### カテーテル治療で脳卒中を予防する「ブレインハートチーム」結成!



▲ブレインハートチームメンバー

当院は、患者さん一人おひとりに最適な治療を提供するため、医師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士などの多職種による「チーム医療」を行っています。近年、心臓に原因のある脳卒中の予防がカテーテルを用いて行えるようになり、循環器内科及び脳神経外科、脳神経内科の医師が中心となって「ブレインハートチーム」を結成し、この診療をスタートしました。

愛媛県の脳卒中の予後改善のため、チーム一丸となって努めてまいります。



▲毎朝のチームカンファレンス

「ブレインハートチーム」で取り組む新しい脳卒中の予防治療法は次ページ▶▶▶

【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地 TEL : 089-947-1111



ホームページは  
こちらきゃん!



# 新しい脳卒中予防治療についてのご紹介

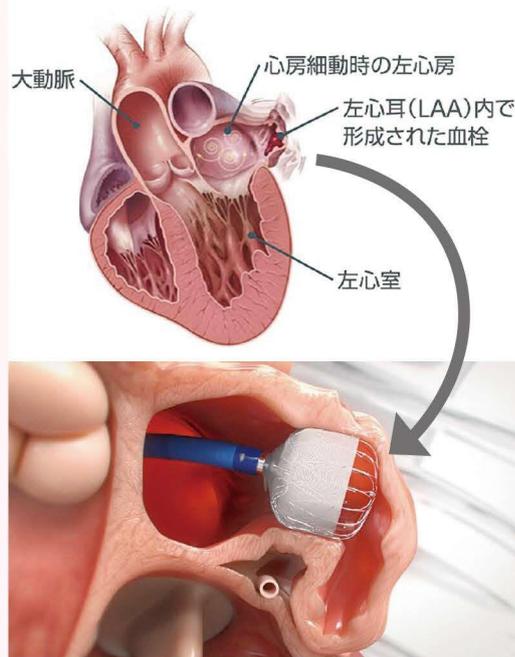
脳卒中は、健康寿命を大きく損ねてしまう深刻な疾患です。近年、下記の2つのタイプ「心房細動による心原性脳塞栓症」及び「奇異性脳塞栓症」に対して、カテーテル治療による予防が可能となりました。いずれの治療も、当院が県内唯一の治療認定施設(※)となっています。(2022年3月現在)

※…2020年12月1日 心房細動による心原性脳塞栓症の治療実施施設として、一般社団法人日本循環器学会より認定。  
2021年5月25日 奇異性脳塞栓症の治療実施施設として、一般社団法人日本心血管インターベンション治療学会より認定。

## 1. 心房細動による心原性脳塞栓症

不整脈の一種である心房細動になると、心房が小刻みで不規則に拍動するために、有効に収縮せず、心房の中で血液がよどむことにより血栓が生じやすくなります。心房細動による血栓の約9割は、左心房にある左心耳の中にできるといわれていますが、その血栓が心臓から送り出され、血流に乗って脳の血管に到達すると脳梗塞を発症します。予防のためには抗凝固薬を生薬服用することが推奨されていますが、内服しても脳梗塞を発症してしまう患者さんや、抗凝固薬の副作用である出血性合併症のリスクが高い患者さんに対する、より有効で安全な治療法が待ち望まれていました。

WATCHMAN (ウォッチマン:「番人」の意味) は左心耳にフタをする器具で、足のつけ根の静脈からカテーテルを通して左心耳に留置されます。脳梗塞のリスクを抗凝固療法並みに低減させながら、抗凝固薬の服用を中止することが可能となります。



留置した WATCHMAN の周りを覆うように内皮化が進むため、血栓が脳の血管に流れるのを防ぐことができます。

当院ホームページに、WATCHMAN による予防治療について、詳しく説明した特設ページを開設しています。

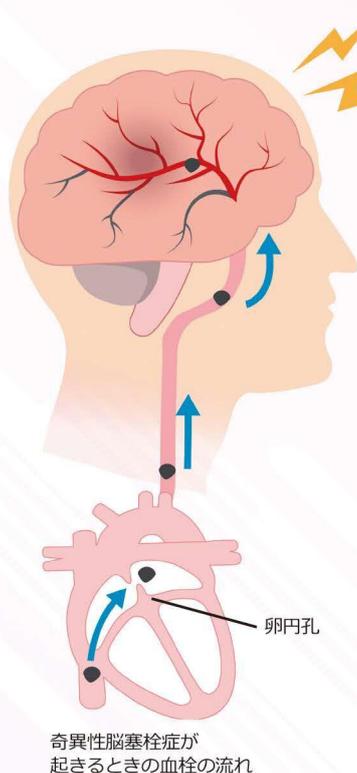


## 2. 奇異性脳塞栓症

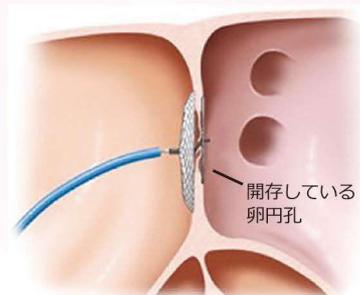
卵円孔は右心房と左心房の間の壁(心房中隔)の中央にできた穴のことで、通常、出生後数カ月以内に自然に閉鎖しますが、成長しても閉じずに残っていることも少なくありません。この状態を卵円孔開存(PFO: Patent Foramen Ovaleの略)といい、成人の3~4人に1人はPFOがあるといわれています。多くの場合は無害で症状もなく、治療の対象にはなりません。下肢の静脈などに形成された血栓が、ごく稀に卵円孔を通じて左心系(体循環系)に至り、脳梗塞などの重篤な病気を発症することがあり、「奇異性脳塞栓症」と呼ばれています。

従来、抗血栓薬による薬物療法が行われてきましたが、薬を長期間服用する必要があり、出血性合併症が懸念されます。

近年、卵円孔開存に対するカテーテル治療が、薬物治療よりも脳梗塞の再発予防効果のことが示され、日本でも治療が可能となりました。専用の器具を使い卵円孔開存を閉鎖することで右心房と左心房の血流を止め、脳梗塞や全身の血栓塞栓症の再発を予防します。



奇異性脳塞栓症が起きるときの血栓の流れ



卵円孔開存を専用デバイスで塞ぐことで、奇異性脳塞栓症を予防することができます。

当院ホームページに、卵円孔開存に対するカテーテル治療について、詳しく説明した特設ページを開設しています。





皮膚科の対象疾患は、炎症性のものから腫瘍まで幅広く、当科では、より重症度の高い疾患を中心に、地域の医療機関、開業医の先生よりご紹介をいただき、診療を行っています。

本院が開業医の皮膚科医院と大きく異なるのは、入院管理が必要な重症疾患の治療や手術を行っていることです。「皮膚病での入院や手術」と聞くとピンと来ないかもしれませんが、発熱などの全身症状をともなう炎症性の皮膚疾患や感染を伴う皮膚の傷（潰瘍や壊疽）、広範囲重症の熱傷では、入院のうえ、毎日の処置が必要になります。皮膚腫瘍の治療は手術になり、切除したあとの皮膚欠損が大きければ別の部位から採取した皮膚で傷をふさぐ「植皮術」という手術も行います。また外来診療では、通常の治療に加えて、抵抗性の慢性疾患に対しての紫外線療法や、承認施設でしか使用できない生物学的薬剤や JAK 阻害剤といった新規の薬剤を用いた診療もしています。

今後とも、皆さんに安心して治療を任せいただけるように努めてまいります。

## 外来で使用する紫外線治療器



▲エキシマライト（狭範囲）



▲ナローバンドUVB 照射器（広範囲）

## アトピー性皮膚炎の新しい治療

アトピー性皮膚炎の治療の基本は外用剤の塗布ですが、この塗布方法も進化しています。その治療法を「プロアクティブ療法」といいます。皮膚炎のひどい時だけでなく、消失した後も定期的に塗布することで皮膚炎の再発を未然に抑制し、最終的に保湿剤によるスキンケアのみでの良好な状態を目指すという治療法です。

その他にも、やや高額な薬剤ですが大変効果的な注射薬であるデュピクセント（生物学的製剤）、内服薬の JAK 阻害剤、といった新しい薬剤による治療も行っています。

当院の  
ドクターを  
紹介します

## ドクターズカルテ

血液内科 <sup>もり</sup> 森 <sup>まさかず</sup> 正和 先生  
Doctor



▲国際会議でのポスター発表。  
作成したポスターをバックに1枚

血液内科の森正和と申します。滋賀県長浜市出身です。2003年に高知医科大学（現高知大学）を卒業し、2019年から当院で診療しています。リンパ系腫瘍を中心とした血液腫瘍を専門として、引き続き愛媛県の医療に貢献していく所存です。

プライベートではキャバリア・キングチャールズ・スパニエルという犬種を飼っています。高名な血液学者から名前を拝借して『アマ』と名付けましたが、聡明には育ちませんでした（ご飯の時だけいうことをききます）。趣味は映画鑑賞ですが、ここ2年ほどはご無沙汰してしまっています。'Old West Action' と聞いただけで誰のアナグラムか分かってしまう方がいらっしゃいましたら、コロナ禍が収束した暁にはじっくり語り合いたしましょう（笑）。



▲愛犬のジュニ（左）とアマ（右）が同じポーズでリラックス

当院の  
研修医を  
紹介します

Resident

1 年次研修医  
いけうち かの  
池内 香乃先生

仕事以外の過ごし方を教えてください。

パンが好きなので、休日はパン屋さんに行くことが多いです。美味しいご飯を食べたりお酒を飲んだりすることも好きなので、いろいろなご飯屋さんに行くことも楽しみの中の1つです。新型コロナウイルスの流行が落ち着いた時期には、大学時代の友人と旅行に行ったり、同期の研修医とキャニオニングをしたりしました。最近は、



▲同期とのキャニオニングでの1枚。  
"All for the Patients!!" のポーズで

テレビやアニメ、好きなアーティストのライブ映像などを見て、楽しく家で過ごしています。



日頃気を付けていることは何ですか？

診療の間では分からないことも多いので、その都度、自分で調べたり指導医の先生に聞いたりして、すぐに解決することを心がけています。初期研修のうちに、幅広い知識と技術を身につけられるよう、努力しています。

今後の目標は何ですか？

研修医生活はあっという間で、もう1年が過ぎようとしています。先生方や医療スタッフの方々に支えられながら、日々診療にあたっています。周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、日々の学びを丁寧に吸収していきたいです。初期研修後も、地元愛媛の医療に貢献したいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



▲仕事の空き時間に、気管挿入の練習を行っている様子

## ●改善推進本部の説明●

当院に「改善推進本部」という部署があることをご存じですか？

「改善推進本部」は、当院の理念である「県民の安心の拠り所となる病院であること」を実現するために、医療の質向上を目的として2012年1月に設立しました。全国の自治体病院で組織として改善の部署があるのは珍しいことです。

本部には、部下の意見や提案をもとに上司が意思決定するボトムアップの活動を支援する「改善推進室」とトップダウンの活動を牽引する「クオリティマネジメント室」があります。

## ●改善推進本部のお仕事●

### 改善推進室

#### TQM サークル活動

よりよい医療を提供するために職場の問題解決に取り組んでいます。「All for the Patients!!」の精神(合言葉)のもと、サークル活動の支援として、改善の手法を学ぶための研修や動画作成、アドバイスなどを行っています。



▲今年度のサークル活動参加チームの紹介ポスター

#### ワンポイント改善

「いつでも、誰でも、どこでもできる改善」を職員から幅広く集めています。毎年たくさんの職員から改善提案が集まっており、改善の風土づくりに貢献しています。



▲改善事例を1枚のポスターにして、全職員にわかりやすくお知らせしています

#### カイゼンラウンド

医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務・EHP 職員など多職種で、院内全部署を訪問しています。現場に足を運び、問題点を拾い上げ改善を促したり、優れた取り組みを発見し院内全体に周知しています。



▲薬剤が適切に管理されているか確認しています

### クオリティマネジメント室

#### ケアプロセス監査

病棟の代表的な症例をあげて、診療内容、診療録、看護記録について評価しています。医療安全、感染制御、カイゼンラウンドなど様々な観点から問題を共有し、医療の質向上を目指しています。



▲定期的に関催し、職員間で情報共有しています

#### 専門部会プロジェクト

当院の「医療の質」向上を図るため、4つの専門部会を設けて活動しています。

- |            |         |
|------------|---------|
| ・診療録監査部会   | ・文書管理部会 |
| ・医薬品安全管理部会 | ・QI管理部会 |

さらに「職員やりがい度向上プロジェクト」など、必要に応じてプロジェクトチームを結成し、院内の実効性のある取り組みを推進しています。



紹介したものは改善推進本部のお仕事のほんの一部です。ご興味を持たれた方は、ぜひ当院ホームページもご覧ください！

# TQM サークル活動 & 表彰サークル紹介

愛媛県立中央病院における医療現場での改善、すなわち「医療の質の向上」を目指して問題解決活動を行っています。それを当院では「TQM (Total Quality Management) サークル活動」と呼んでいます。改善によって医療の質が向上することになり、仕事の新たな魅力が引き出されたり、個々の職員の才能を伸ばすことにもつながると考えています。

2012年に始まったTQMサークル活動も、今年で10回目の節目を迎えました。最近では、医師主導のサークルも加わり、医療安全や診療の質向上にさらに効果が出ています。今年度は「10年目の原点！創意工夫で誇りをもって厳しい環境にしなやかに対応しよう」をテーマに総勢14サークルが活動を行いました。



▲改善の合言葉は「All for the Patients!!」

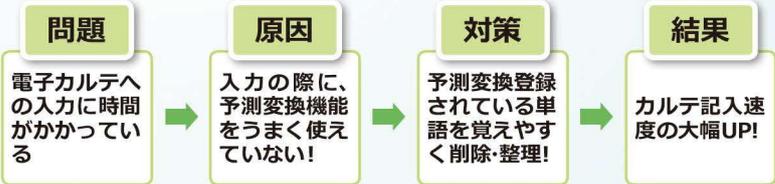
- 患者サービス
- 診療の質
- 医療安全
- 教育・指導
- 業務改善
- コスト削減
- 職員満足



▲「リハビリポリス」のみなさん

## 最優秀サークル「リハビリポリス」の活動紹介

この改善によって、患者さんと向き合える時間が増えました！



## 少しずつ前に！



寒さも落ち着き、少しずつ春の気配を感じる季節になりました。朝の散歩が少しやすくなりましたね。皆さん、15分程度の散歩できていますか？

新型コロナウイルスの第6波で、運動不足や、人との接点がなく寂しい思いをしたり、感染に対する恐怖などから病院に行くことすらためらってしまったり、ストレスをたくさん抱えてしんどい思いをしたりした方も多いと思います。また、新型コロナウイルスについても様々な情報が飛び交っており、不安な思いをした方も多いのではないのでしょうか。春に向けて、前向きに少しずつ歩みを進めていきましょう。



### 脳トレのすゝめ

前向きになるためには、頭の回転も良くしておかなければなりません。漢字を書いたり、ナンプレなど数字クイズをしたり、小学生のときなら答えられるクイズに挑戦してみたりすると、結構刺激になっていいですよ。テレビやスマートフォンの情報を目にするだけでは、意外に頭に残りにくいので、意識的に「字を書く」「本を読む」「考える」ことをして脳を刺激しましょう。

### 正しい情報を取得しよう！

ところで皆さん、自分の病状や疾患、治療についてインターネットで検索したことはありますか？パソコンや、スマートフォン等を活用し情報を得ることはとても簡単ですが、インターネットの情報はすべて正しいとは限りません。すごく正しいように情報を過大に表現して流す少し悪い人もいたりします。自分の都合のいい情報だけを鵜呑みにしないように気を付けてくださいね。病気に関しての正しい情報を得るためには、ご自身の主治医、かかりつけ医としっかり対話をするのが大切です。わからないことをわからないままにしないようにしてくださいね。私たち医療者も、問いかけにはしっかり答えていけるよう皆さんの表情や態度に真摯に向き合っ、お互いに理解し合えるようにしていきたいと思っています。





## 転入・転出医師 (2021.12.1 ~ 2022.3.15)

転入

所属	氏名	専門
麻酔科	佐々木 知恵	麻酔一般
腎臓内科	西脇 麻里子	腎疾患全般、血液浄化療法
心臓血管外科	原田 崇史	心臓血管外科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	勢井 洋史	嚥下障害、頭頸部外科

転出

所属	氏名
産婦人科	今井 統
産婦人科	行元 志門
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	上甲 智規
精神科	佐尾 知子
内科	肥山 隆一郎
内科	黒河 司

疑問を解決!

## 県中 Q & A

### Q. かかりつけ医ってなに？

**A.** 「かかりつけ医」とは、患者さんの身近にいて、日頃から健康相談を行ったり、病気になったときに最初の診断治療を行う医師のことです。必要があれば、適切な専門医に必要な情報を添えて紹介することもあります。かかりつけ医を持つには、特別な手続きや費用は必要ありません。自分で「この医師が私の『かかりつけ医』である」と決めれば、それで構いません。また、1人に決める必要もありません。

### Q. 「かかりつけ医」を持つ必要はあるの？

**A.** 大きく3つのメリットがあります。ぜひ信頼できる「かかりつけ医」をお持ちください。

- ① 日頃の健康状態をよく知ってもらうことで、病気の予防や早期発見、早期治療に繋がります。
- ② 病気や症状、治療法などについて、適切な診断やアドバイスをしてくれます。
- ③ 必要に応じて、適切な専門医療機関を紹介してくれます。



### Q. 県立中央病院を「かかりつけ医」としていいの？

**A.** まずは、お近くの医療機関をかかりつけ医とすることをおすすめします。当院は、かかりつけ医から紹介を受けて、高度な検査や手術を行う「地域医療支援病院」です。お近くの医療機関と連携していますので、紹介があった際に当院へお越しください。



普段の診療は、  
かかりつけ医へ



#### 「かかりつけ医」を持ちましょう！

1. 病気の予防や早期発見・治療
2. 適切な診断・アドバイス
3. 適切な専門医療機関を紹介

それぞれが得意な医療を担当・連携することで、  
**地域全体の医療体制**  
を支えています！



地域の医療機関(かかりつけ医)  
初診や日々の診療を担当。検査や入院の必要な時は専門の病院を紹介。

病 診 連 携

地域医療支援病院(当院など)  
高度な検査・手術などを担当。病状が安定したらかかりつけ医に紹介。

※かかりつけ医などからの紹介なく、当院を含む地域医療支援病院を受診すると、診療費とは別に「選定療養費」として負担が生じる場合があります。費用面からも、まずはお近くの医療機関をかかりつけ医とすることをおすすめします。

# 連携医療機関紹介 ～第25回～

## 医療法人 岡部クリニック

- 所在地 松山市東垣生町 136
- TEL 089-972-2221 ■FAX 089-972-2244
- 診療科目 内科・消化器内科
- 外来診療時間 休診日 日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00	○	○	往診	○	往診	往診	×

※水曜日・金曜日・土曜日の午後は往診につき外来は休診となります。

【病院の概要】 2006年に重信川河口に近く、空港近くの東垣生町で内科を開業しました。消化器内科、一般内科、在宅医療を中心に、看護師6名、医療事務3名体制で地域医療に貢献できるように日々努めています。

【病院の特徴】 消化器疾患（胃腸、肝臓、膵臓）につき、胃カメラ、大腸カメラ、腹部エコー検査は毎日行っています。がんなどの悪性疾患、緊急に処置が必要な場合は、県立中央病院を紹介し、緊密な連携をとっています。また、在宅医療を希望される方を県病院から逆に紹介されることも多く、在宅支援室（専任看護師1名、事務1名）を設置し、迅速な対応を心がけて、包括支援センター、ケアマネージャーさんとも連携しています。



## 医療法人 藤原耳鼻咽喉科

- 所在地 松山市保免中3丁目8-22
- TEL 089-971-3341 ■FAX 089-971-3212
- 診療科目 耳鼻咽喉科
- 外来診療時間 休診日 木曜午後、日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00 (受付は8:30～11:30 ※1)	○	○	○	○	○	○	×
14:30～18:00 (受付は14:10～18:00 ※2)	○	○	○	×	○	○	×

※1 木曜午前の受付時間は8:30～12:00 ※2 土曜午後の受付時間は13:30～16:00

【病院の概要】 1992年7月に保免で開業しましたので、もう少しで30年になります。スタッフは看護師5名を含む13名です。吹き抜けの明るい診察室があり、25台余り駐車できます。

【病院の特徴】 耳、鼻、咽喉頭、めまいなど、耳鼻咽喉科領域全般の診断・治療を行っています。補聴器相談医でもありますので、難聴の方のご相談も多く受けています。開業当初と比較して圧倒的に変化したことは、他の医療機関との連携が「密」になったことです。コロナでは「3密」を避けることが重要ですが、患者さんにとっては、病診連携や診療所間での連携の「密」は、とても大切です。それぞれの患者さんが他院で受けている治療や投薬内容を十分に把握して、耳鼻科的な疾患との関連の有無を考えながら、毎日の診療を行っています。また県立中央病院と連携を図ることで、より詳細な検査を依頼し、入院や手術治療の判断や悪性腫瘍の早期発見につなげています。0歳児からご高齢の方まで、幅広い年齢層の方に応えられるよう、丁寧な説明と治療を心がけています。



当院は、2010年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。

(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

